

平成五年度農林水産祭林産部門

日本農林漁業振興会会長賞受賞

株式会社

沓澤製材所の工場経営

株式会社沓澤製材所は、昭和二年に秋田県大館町において沓澤貞蔵氏が樽丸業を開始したことに始まり、その後同七年に製材業を併設、同三十五年に法人に改組、設立された。売上高約八億五千万円、従業員数五五名（平成五年四月一日現在）の、三つの工場をもつ地域産スギ材の製材、集成材、桶樽の製造・販売を主とする会社である。

一 出品財の特色

出品財の製材品は、地元産のスギを原木に、寸法精度、仕上がりとも優れた一〇・五cm×一〇・五cm×三mの構造用製材品（人工乾燥材で含水率二五%以下）で、平成三年七月から施行された「針葉樹の構造用製材の日本農林規格（以下、「新製材JAS」と言う。）」に

基づく適切な表示がなされているものである。

二 経営の特色

（株）沓澤製材所は、秋田県北地域の地元産スギを主体に七〇年生以上の高齢優良丸太からの割柱（心去柱）や造作材及び集成内装壁面材を、一般丸太からは建築用材やムク内装壁面材を生産しているほか、天然秋田杉からは張天や桶樽などの製品を、端材は化粧張り集材用コア材や集成内装壁面材、更に、花器等の小木工製品などとして活用しており、木屑、樹皮は乾燥用燃料として利用するなど、製品歩留まりを可能な限り高めつつ、並材から良材までを余すことなく利用し、各種製品を生産している。スギ製材品の約八割は一般製材品であり、スギ一般材の供給増が見込まれるなか、これら一般材の付加価値向上のために、いろいろな技術開発を行っており、資源依存型から加工技術を基盤とする技術立地型企業への転換を図っている。

している。更に、創業当時より、山林の取得及び植栽活動に取り組んでおり（約四百ha）、将来を見通した製材用原木の自給を実現するための山林経営も行っている。

三 技術の特色

原木の徹底した選別、優れた製材技術による寸法精度、仕上がりともに優れた品質の製材製品を安定して生産・出荷している。特に、人工乾燥においては、全国に先駆けてスギの人工乾燥に取り組み、柱角、造作材の人工乾燥技術をほぼ確立し、更なる向上を図っている。また、木目出しや表面硬化処理、抜け節処理、着色技術を用いて新たな内装材の開発を行うなど高次加工技術による付加価値の高い製品開発にも積極的に取り組んでいる。更に、品質性能が保証された製品の供給のために、新製材JASを積極的に進めている。

以上のように、技術・経営全般にわたり国産材を原料とした、特にスギの総合利用を考えた林産業のモデルとして高く評価される。また、秋田県北地域の木材業界はもとより、地域社会のリーダーとして積極的に取り組み、大きく貢献している。

（伊巻和貴・林野庁研究企画官）